

第10回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 配管減肉分科会 議事録

1. 日 時：2015年4月10日（金）13時30分～17時20分
2. 場 所：日本機械学会 第3・4会議室
3. 出席者：井手（東電）、川端（関電）、近藤（MHPS）、増田（東京PT）、五代儀（火原協）、
竹石（東北電力）、橋井（富士電機）
代理者：なし
欠席者：朝倉（東芝）、大鹿（中電）
オブザーバ：東（富士電機）、吉村（富士電機）、半澤（東北電力）、二宮（関電）
事務局：原

4. 配布資料

- 10-1 配管減肉分科会前回議事録案
- 10-2 配管減肉分科会委員名簿
- 10-3 第71回火力専門委員会議事録(案)
- 10-4 第73回発電用設備規格委員会議事録（案）
- 10-5 欠番
- 10-6-1 3方向放射線透過法による試験の意見集約結果に対する回答
- 10-6-2 3方向放射線透過法規格原案対比表
- 10-6-3 3方向放射線透過法による配管肉厚測定装置 説明資料
- 10-7-1 審議履歴表
- 10-7-2 新旧対比表
- 10-7-3 201x版 改訂履歴

5. 議題

- (1) 前回議事録確認 [資料 10-1]
前回議事録（案）について確認を行ない、議事録案は承認された。

- (2) 分科会委員・役員の承認 [資料 10-2]
新任、再任候補、退任委員はなし。
近藤委員の所属の変更：CS 技術グループ → サービス技術戦略1グループ

(3) 報告事項

- (3-1) 火力専門委員会報告（2月25日開催） [資料 10-3]

第71回火力専門委員会の審議内容について、以下のとおり報告された。

- ・火力専門委員会委員・役員の推薦承認
- ・各分科会委員・役員の承認
- ・第9回配管減肉分科会報告

配管減肉管理に関する規格(JSME S CA1-2005)改訂案の審議状況、火力設備配管減肉管理技術規格(JSME S TB1-2009)改訂の審議状況、放射線透過式配管減肉

測定装置に関する審議状況について報告。

- ・配管減肉管理に関する規格(CA1-2005)の改訂提案について審議を行い、火力専門委員会での書面投票の実施が承認された。

(3-2) I I P委員会における検討状況の紹介

[資料10-3-2]

火力専門委員会において報告があったI I P委員会の検討状況について、資料に基づき井手主査より紹介があった。

- ・許容引張応力、材料の使用制限、耐圧試験圧力、材料及び溶接部の衝撃試験の検討状況を紹介。
- ・液化ガス設備等の安全率変更の結論が出るまで、火技解釈の安全率は、3.5と4.0を併記する方向で検討中。

(3-3) 規格委員会報告(3月11日開催)

[資料10-4]

第73回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下のとおり。

- ・火力専門委員会委員・役員の承認
- ・火力専門委員会の活動状況報告の報告
- ・「技術評価対応要領」の承認・制定の報告、「提供データ取扱要領(内規)」の承認・制定、「規格委員会運営規約」の承認の報告。
- ・火力専門委員会関連の審議
発電用火力発電規格の審議、火力専門委員会の書面投票の可決を条件に発電用設備規格委員会の書面投票を実施することの承認。

(4) 審議事項。

(4-1) 配管減肉管理に関する規格(JSME S CA1-2005)の改訂について

- 火力専門委員会の「CA1-2005の改訂」に関する書面投票(No65:2/27~3/26)が、反対意見、参考意見なしにて可決されたことが報告された。

(4-2) 火力設備配管減肉管理技術規格(2009年版)の改訂案

新旧対比表の確認

[資料10-7-2,3]

各委員が準備した新旧対比表、改訂履歴を確認した。

○序論(3)(a)引用規格 対比表

- ・引き続き、CA1-2005の改定案の審議状況を確認し、必要により年版を修正。
他の箇所も同様。

・Nonmandatory Appendix JA → Appendix JA

○附属書1 1.2(3)試験員の要件

・対比表の改訂内容欄 NDSJ001 → NDISJ001

○附属1 2.1.1 対比表(修正漏れ)

・センサー → センサ(2箇所)

・及び → および

○附属書 1 添付資料 7.1 対比表

- ・fn は発行された規格では斜体になっていないので、整合をとる。

○附属書 6 解説 3 対比表

- ・2009 年版の欄の修正箇所にも下線を引く。 「反射エコー」
- ・改訂内容の欄 「〇〇〇〇〇」を修正する。
- ・反射エコー → エコー (1 箇所修正漏れ)

○解説 8 対比表

- ・(A, B 系統各 1) → (A, B 系統各 1 個)
- ・曲管オリフィス → 曲管 (2 箇所)
- ・合計 4 個の → 合計 4 個が

■今後の進め方

- 主査が、改訂原稿、新旧対比表、改訂履歴を今回の審議を反映・修正して各委員に送付する。
- 各委員は、修正した資料をチェックし、意見・気付いた点などを随時三役に連絡する。
(次回分科会：7/3(金)の2週間前まで)。それ以降三役にて確認を行う。

(4-3) 放射線透過式配管肉厚測定装置について

[資料 10-6-1,2,3]

富士電機東氏より、意見集約結果に対する回答、規格原稿の対比表、パワーポイントの説明資料の修正点、について説明があり、審議を行った。

[資料 10-6-1]

- 意見 No5 の回答：まず不確かさの考え方を記載し、その後に修正内容を記載するように見直す。

[資料 10-6-2]

- 8.1(1)(f) *2 は削除。

○添付資料 8.2(1) γ 線照射器

はじめに γ 線照射器の説明を記載する。認証機器の場合のみを記載するなど、記載内容を見直す。

○添付資料 8.4(3) 装置取付けによる芯ぶれ

(1), (2)と記載整合を図り、「芯ぶれ自体について」, 「目安芯ぶれ量に対する不確かさを例示」といった順で説明すること

[資料 10-6-3]

- 「吸収係数、減衰率及び不確かさの算出」は、「及び不確かさ」を削除する。
- どのくらいの大きさの配管まで測定できるかの説明を、PPT の説明資料 36P へ盛り込む。

■今後の進め方

- 4月中に富士電機にて今回の審議内容を反映した修正を行い、各委員が修正した資料を連休明けから 1 カ月程度で確認し、確認結果を三役に連絡。

○次回分科会までに、修正資料の確認結果の集約および資料の再修正を行い、次回分科会にて規格案の上程等について審議。

6. 次回開催予定

日 時：2015 年 7 月 3 日（金）13 時 30 分～17 時 00 分

場 所：日本機械学会 第3・4会議室